



川内小学校だより

ゆずり葉

第6号 令和6年9月3日



先行き不透明な時代を切り開く子どもたちに！

2学期がスタートしました。この夏は猛暑日が続いたり、地震が起こったりするなど、今後の日本は一体どうなってしまうのだろうと心配になった方も多いことと思います。今、時代は自然災害はもちろん、新型コロナウイルスの流行等、今まで予期しなかった出来事が次々と起こっています。この先行き不透明な時代を切り開くためには、これからの子どもたちにどのような力をつけることが必要なのでしょうか？今回は、子どもたちに今求められている力について考えていきたいと思います。

これからの時代に求められる力とは・・・



上記の図は、文部科学省から出された「小学生の保護者向けリーフレット」の1部です。子どもたちに、これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創ってほしいと願って作成されたものです。

また、先行き不透明な時代を切り開くために、これからの子どもたちに必要なものとして、以下の三つの資質・能力を掲げています。

- 1 実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能**
(各教科等に関する個別の知識や技能、身体的技能や芸術表現のための技能等。社会の様々な場面で活用できる知識・技能となるように)
- 2 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力など**
(必要な情報を選択し、解決の方向性や方法を比較・選択し、結論を決定していくために必要な判断や意思決定。伝える相手や状況に応じた表現。)
- 3 学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性など**
(主体的に学習に取り組む態度 自己の感情や行動を統制する能力、互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関するもの。)
※ 裏面へ続く

群馬県教育委員会からも、以上のことを受け、「**自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す!**」をキャッチスレーズに、**人間が誰しも持っている自分や社会をよりよくしようとする力(エージェンシー)**を発揮できるような教育活動を行うことが提言されました。失敗を恐れず目標に向かって試行錯誤することを重視しています。テストの点が取れば良いというのではないのです。昨年度末の高校入試からも入学者選抜方法が大きく変わり、思考力・判断力・表現力等を重視する記述式問題も増えています。

そこで、川内小では・・・

夏休み中に、先生方が各学年のカリキュラムを見直しました。子どもたちの意欲を高め、学んだことを社会や生活に生かせるよう、川内地区の様々な教育資源(山田川、白瀧神社、千網谷戸遺跡、カッコソウ等・・・)を生活科・総合的な学習の時間や校外学習等に取り入れられるかどうかを検討しました。また、各教科ごとのつながりを確認し、子どもたちの学びの質を高め、学習の効果が最大限に上がるように工夫しました。2学期からの子どもたちの学習に生かしていきます。

エージェンシーを発揮される地域の方々!



7月30日(火)に本校の校長室や体育館で、川内地区の避難所運営委員会を行いました。地域の区長さんや副区長さん(運営委員長)、各地区の町会長さん、市役所の川内地区担当の方々や保健師さん等、10名で災害があったときに川内地区の皆様をどうやって守っていくか協議を行いました。大地震や台風等の災害が起こった際、川内小学校は2次避難所となっています。(1次避難所は市民体育館、相生小、相生中、天沼小)

避難者の誘導、問い合わせ対応、避難所のレイアウト作成等、万が一災害が起こったときに右往左往しないように、大筋の役割分担や業務内容を話し合いました。また、体育館では防災備品を確認するとともに、災害時にも発電機や照明等が正しく作動するかどうかを確かめました。災害時に、みんなを守るために自ら考え、協議し、進んで動く。まさにエージェンシーを発揮される後ろ姿に、人としてのお手本を見た気がしました。

るかどうかを確かめました。災害時に、みんなを守るために自ら考え、協議し、進んで動く。まさにエージェンシーを発揮される後ろ姿に、人としてのお手本を見た気がしました。

自分で考えて、自分で決めて、自分で動いた小学生時代の大谷翔平選手!(野球ノートで振り返り)

2学期の始業式では、こんな話をしました。

～前略～

皆さんもよく知っているアメリカ大リーグで活躍している大谷翔平選手は、小学校2年生の終わりから「野球ノート」をつけていたそうです。そこにはその日の試合や練習で、よかったこと、悪かったこと、そして、もっと野球が上手くなるようにするためには次のような練習をしたら良いのかを考えて目標を書いていたそうです。そして、次の日の練習ではもっとうまくなるために、その目標に取り組んでいたそうです。

小学生の頃から、大谷選手は、自分の頭で考えて、自分で練習方法を決めて、そして自分から工夫して取り組んでいたのです。今、大谷選手は世界中の人々から尊敬されていますが、その元は小学生時代から自分で考え、自分で決めて、自分で動いていたという姿勢にあるのだと校長先生は思います。



さて、皆さん。いよいよ2学期が始まります。2学期はいろいろな勉強とともに、運動会や、校外学習など楽しい行事もたくさんあります。人から言われてやるのではなく、自分で考え、自分で決めて、自分で動いて大谷選手のように立派な人になってほしいと思います。特に、授業の最後では振り返りを書く場面があると思います。大谷選手のようにその日の授業でよかった点、悪かった点を振り返り、次にどうしたら良いのかを考えて、1日1日を大切に振り返っていきましょう。